

北海道のこころみ

2008年9月12日 OSC島根

澤田 周 (LOCAL)

sawada@local.gr.jp



北海道のあゆみ

- ・ 2004年より毎年OSSイベントを開催
 - GoDo2004 (@札幌市産業振興センター)
 - OSC2005-Do (@北海道大学)
 - OSC2006-Do (@北海道大学)
 - OSC2007-Do (@北海道大学)
 - OSC2008-Do (@札幌市産業振興センター)
- ・ 例年の規模感
 - 参加者300名・4トラック・5コマ程度
- ・ 札幌地区における、唯一の(?)大規模なOSS関連イベントとして定着



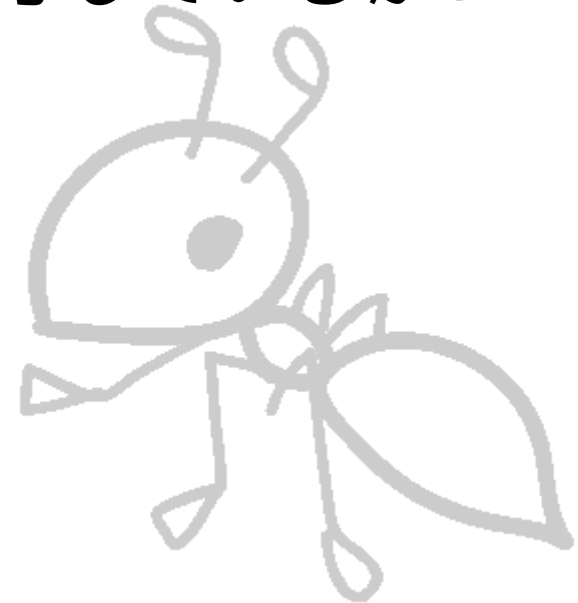
問題点

2007年までの問題点



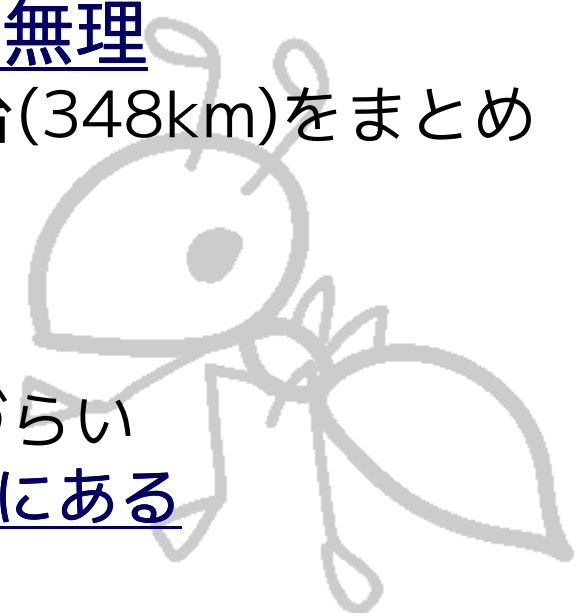
問題点 1

- ・ 地域ユーザグループの活動が停滞
 - そもそも、**地域UGの存在意義**は？
 - ・ 技術なら全国MLで訊くべき
 - どれだけの人が実際にUGに関与しているか？
 - ・ **数人のみ**ががんばっている



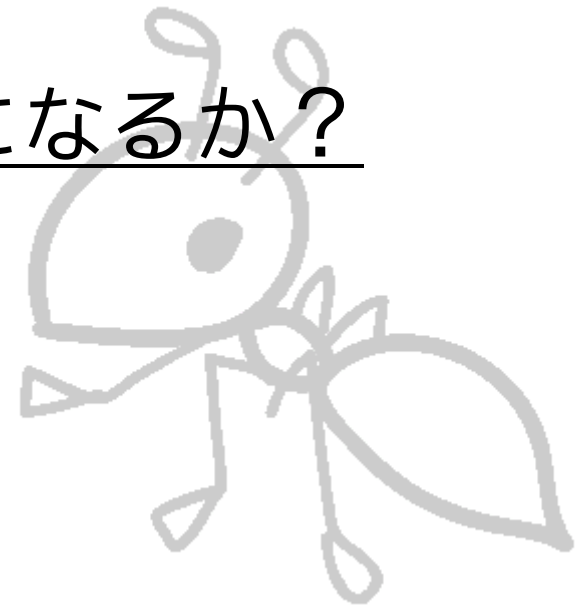
問題点 2

- ・ 北海道は、かなり広い
 - 札幌－釧路：325km
 - 札幌－旭川：134km
 - 札幌－函館：253km
 - 札幌－北見：293km
- ・ 「北海道」と一言にまとめるのは無理
 - 東京－名古屋(362km)や東京－仙台(348km)をまとめて「東京」と呼ぶようなもの
- ・ アクティブな人材は札幌に集中
 - 他地域でのコミュニティが成立しづらい
 - 東京と全国各地域、の縮図が北海道にある



問題点 3

- ・ OSC開催現地部隊の固定化
 - 6人程度が中核となり多数の協力を得て開催
 - 毎年となると、リソース的に厳しい
 - 現状の体制であと3年続けられるか？
- ・ どうすれば、よりよいOSCになるか？
 - 現状の体制では限界



問題点 4

・ イベント開催障壁

- オカネがない
 - ・ 小さな勉強会程度ならカンパで運営可能
 - ・ 講師を招聘しようとする、費用は運営スタッフによる持ち出し？
- 会場を都度一生懸命探さないといけない
- 告知チャンネルってどこ??



問題点 5

- ・ 学生が首都圏に就職してしまう
 - 北海道に(魅力的な)仕事がないから？
 - 技術者がいないから魅力的な仕事がない？
 - ・ 決して技術者がいないわけでは、、、

そんなのつまらない！！！！



問題だらけ

- ・ 明るい材料がないわけではない
 - Ruby札幌
 - 釧路OSSセミナー

何かできないか？ 現状のままで良いのか？



解決へのアプローチ

- ・ 問題 1 : 地域ユーザグループの活動が停滞
 - 「直接会って繋がれること」の価値
 - 入門勉強会などを定期的に行うことに意義
 - 中心人物のモチベーションに左右される

- 「xxユーザ会」の枠を越えて、もっとみんなで協力できないか？
 - 沢山の会がうまく回るほど「プレイヤー」はいない
 - 中心人物は、どこにいてもお手伝い出来るような人
 - 合同でイベントを開催するようなアプローチは？

解決へのアプローチ

- ・ 問題2：道内各地域
 - 札幌よりさらに薄い状態
 - ・ OSS等に興味あるひと、多くて3名、少ないと1名
 - この状態でイベントは（講師的に）無理
- 講師だけお手伝いすれば、何とかならないか？
 - 最悪クルマで移動すれば半日で着く
 - 会場・集客・イベントコンセプト調整等は地域側
 - とにかく活動を展開し、人と繋がってゆくこと
 - ・ いずれは小さくても勉強会を独自で開催するような流れへ

解決へのアプローチ

- ・ 問題3：OSC実行部隊の固定化

- 人が変化しない
- 毎年同じようなことで苦勞している
 - ・ 会場確保、当日現場統制等

→ 「枠」を作って、継続的に活動する団体に

- 対外的に判りやすい集団の形態が必要
 - ・ 参加しやすいように工夫が必要
- ルーチンワークの部分は**どんどん定型化**
- **意志決定プロセスを明確に**
- 有志のスタッフに、**目的と役割を与えること**
 - ・ 個人の才覚依存からの脱却



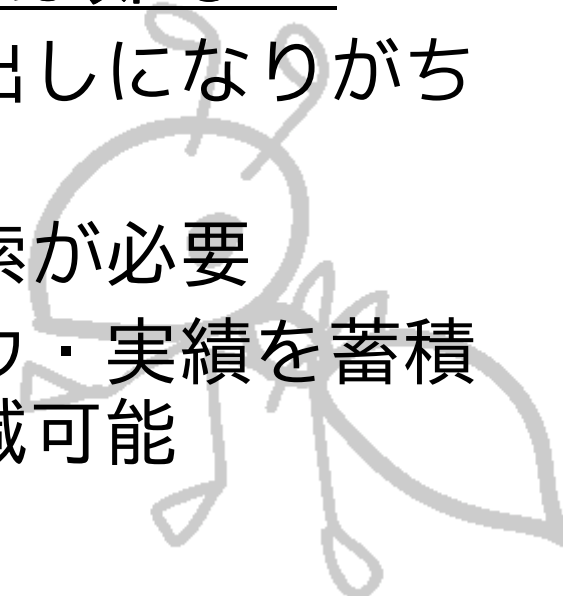
解決へのアプローチ

- ・ 問題4：イベント開催障壁

- オカネがない
- 毎回会場確保に奔走している

→ ユーザ会レベルで対応するのは難しい

- とくに資金面に関しては持ち出しになりがち
 - ・ しかしそれでは続かない
- 社会的に資金を得る方法の模索が必要
- 会場確保に関しては、ノウハウ・実績を蓄積し、公開することでかなり軽減可能



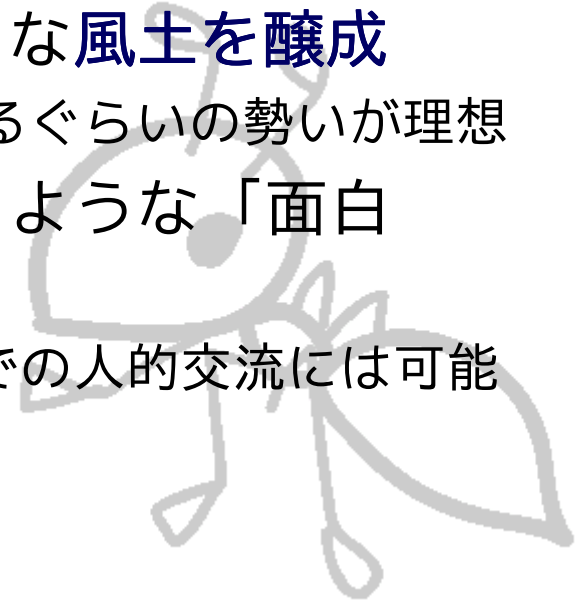
解決へのアプローチ

- ・ 問題5：学生が首都圏に、、、

- みんな北海道は基本的に好き、なのだけれども

→ 「やっぱ北海道だなあ」と思えるような文化、そして「面白い企業」

- 学生さんが遊びがてら参加するような風土を醸成
 - ・ 学生さんが好き勝手に勉強会を開催するぐらいの勢いが理想
- 「あそこで仕事をしたい」と思えるような「面白い」企業が増えれば解決
 - ・ そのきっかけとして、OSSイベントでの人的交流には可能性があるように考える



そこでLOCAL

Leading Organization of Community Activity for LOCAL

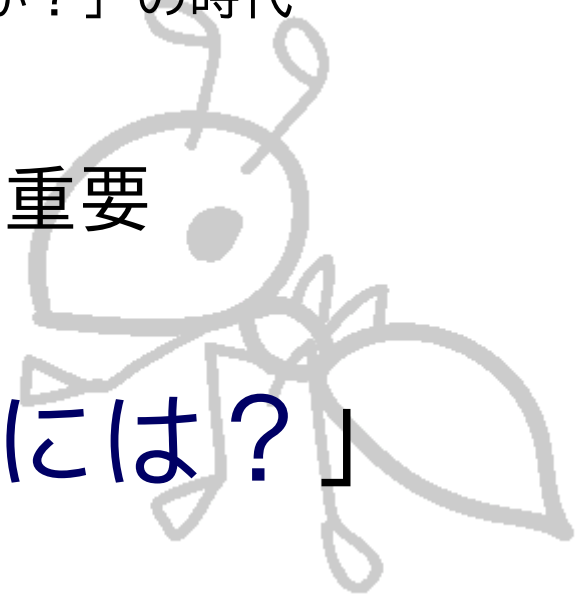
- ・ 2007年の秋に結成
- ・ 活動内容
 - イベントの企画・開催
 - ・ 季節に1度の開催が目標
 - OSCもこの1つ
 - 地域の技術イベントを開催支援
 - 活動資金確保、運用管理
 - コミュニティ間の交流の促進



LOCALの特徴

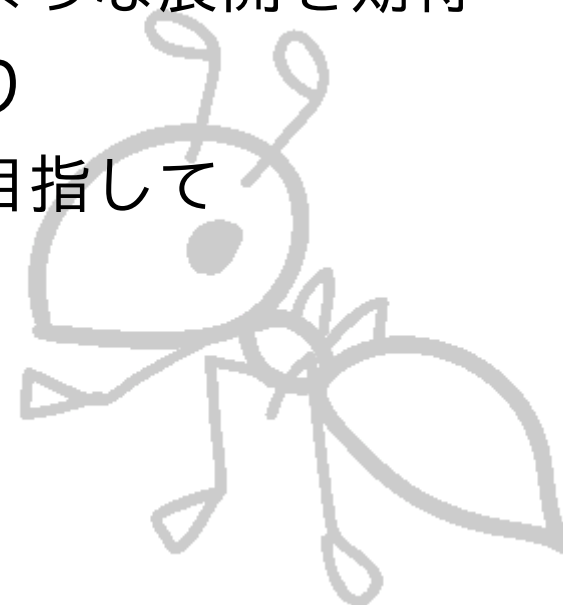
- ・ くくりが違う
 - 特定のソフトウェアをテーマにしない
 - 「この辺の技術」で話が出る「近場の人たち」のコミュニティ
 - プロプラでも全然構わない
 - ・ 今は「どう組み上げてサービスにするか？」の時代
- ・ 「地元が好き」重要
- ・ 「やってて自分たちも楽しめる」重要

「技術者が幸せになるには？」



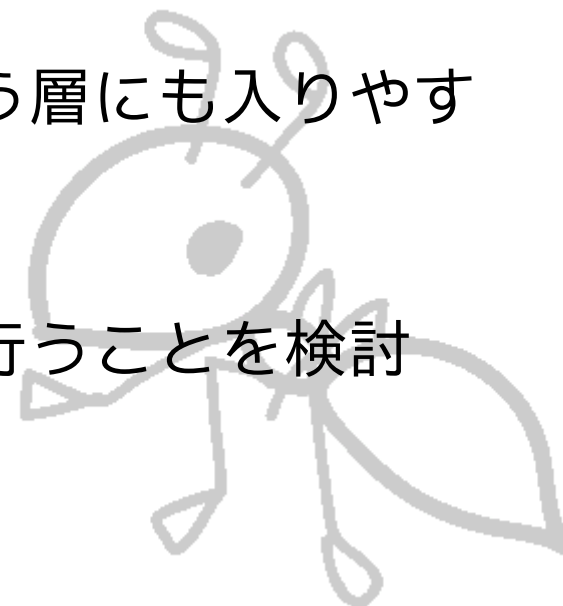
LOCALの目標

- ・ 地域に技術者文化を根付かせること
 - － 技術者にとって魅力ある土壌作り
 - ・ 「サッポロバレー」の基礎
 - － 技術者同士の交流の促進
 - ・ その中からベンチャーが現れるような展開を期待
 - － 学生にとって魅力ある地元作り
 - ・ プラスのスパイラルへの転換を目指して



LOCALの目標

- ・ 持続可能な組織とすること
 - NPO法人化を前提として結成
 - ・ 現在、最終調整段階
 - 属人性の排除
 - ・ 特定個人のモチベーションに左右されてはいけない
 - ・ 「ちょっと手伝おうかな」という層にも入りやすい、的確な仕事・責任の分担
 - 資金獲得を目指す
 - ・ 企業への協賛依頼や収益事業を行うことを検討



LOCALの目標

- ・ 社会的に認められる組織

- 資金獲得を目指す = 社会に関わる
- コミュニティの活動を支援することが社会に良い影響を与えることを示す
 - ・ コミュニティはあくまで技術者の興味によるコミュニティであるべき
- そのためにもNPO化
 - ・ 意志決定ができること
 - ・ 責任者がいるということ
 - ・ 法人格があるということ



LOCALの活動実績

- ・ 1月：釧路OSS関連講座 講師派遣
 - ・ OSS, Windows Client, Rails
- ・ 2月：JPUG北海道支部/Ruby札幌 合同セミナー
 - ・ コーディネート, 会場費支援
- ・ 6月：OSC2008北海道
 - ・ 現地実行委員会, 閉会式メインセッション
- ・ 8月：くしろOSSセミナー 講師派遣
 - ・ GPL, Ruby実例, Ruby初級
- ・ 9月：高専カンファレンス開催支援
 - ・ 会場費用協力, ほか雑品等提供など



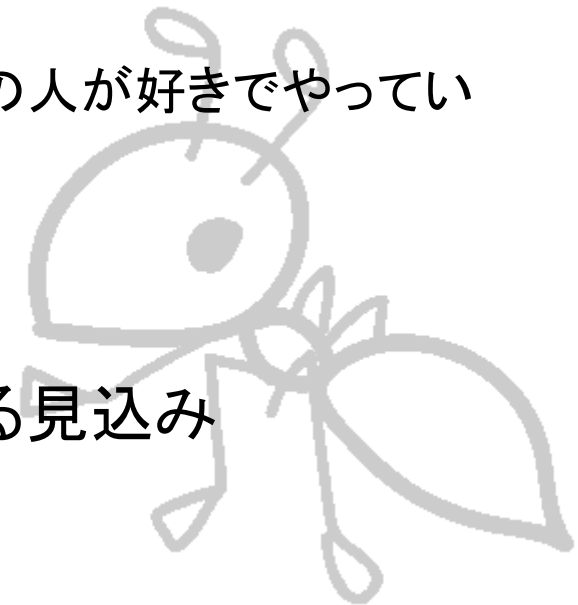
LOCAL 現在のjobs

- ・ NPO設立プロジェクト
 - 事務処理的な部分进行处理中
- ・ 言語系イベント企画プロジェクト
 - 言語好きをターゲットにしたイベントの企画中
- ・ 冬イベント企画プロジェクト
 - 年明け早々にイベント企画が進行中
- ・ 地域支援プロジェクト
 - 道内各地域のイベント開催を支援
 - ・ 札幌圏有志の「持ちネタ」リストを文書化
 - ・ 道内各地の「勉強会開催したい」方々と調整等
 - 旭川：イベント詳細内容の具体的調整段階
 - 帯広：意志の確認・調整段階



LOCAL 現在のjobs

- イベント会場手配を支援するぞプロジェクト
 - 札幌市内で使える・実績のある会場を文書化
- ロゴ・名刺作るぞプロジェクト
 - この資料背景のキャラクタが成果物
- LOCAL PHP部
 - ゆるーくPHPの勉強会を開催
 - LOCAL自体の活動ではないが、LOCALの人が好きでやっている、という立ち位置
- OSC2009北海道
 - 会場について調整中
 - 年内に開催テーマに関する議論に入る見込み



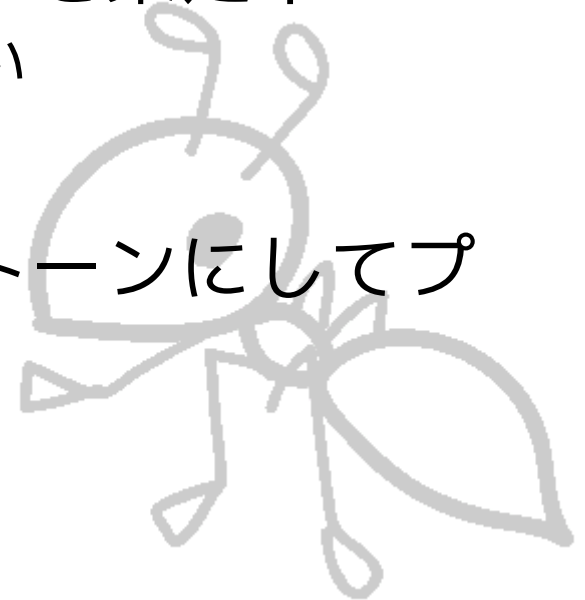
やってみて

- ・ 新しい人が増えてきた
 - 「OSCやっているところってどこよ」への回答
 - ・ 目に見える組織であることのメリット
 - ・ 過去数年間固定のメンバでやっていたことを考えると、大きな進歩
 - ・ そういった人たちにいずれは引き継ぎできるような体制の構築が急務
- ・ 人の交流が豊かになった
 - 少なくとも自分の回りでは



やってみて

- ・ OSCはいい感じで開催できた
 - 反省点はあるが今後の発展を見通せる流れ
- ・ 現状はいろいろいっぱい
 - まだ属人性が強い状況
 - 属人性を排除するためのルールを策定中
 - ・ 必要な部分は属人性を否定しない
- ・ 定期的な活動が重要
 - 月に1度の定例会をマイルストーンにしてプロジェクトが進行



最後に

- ・ LOCALは北海道だけのものである必要はないと思っています
- ・ 僕たちはいつでも、<http://www.local.gr.jp/>から <http://www.hokkaido.local.gr.jp/> に変更する心の準備はできています
 - むしろ望んでいます
- ・ どの地域にも「OSCに関わる飲み仲間」がいらっしゃると思います。こういう形でやってみるのも一つの方法ではないでしょうか

